



## 2022 年秋の読書週間

# 糸島市立図書館員おすすめの本



秋の読書週間(10月27日～11月9日)にちなんで、糸島市立図書館員おすすめの本を紹介します。  
 図書館では各館の特集コーナーに、紹介した本をはじめ、おすすめの本を集めています。  
 ご来館の際には、是非ご覧ください。

### 【表の見方】

書影	タイトル		所蔵館
			請求記号
	紹介文		
	著者	出版者	出版年月





## 一般書




	日曜日の読書		二丈館
			B019 ア
	<p>この作品は、<small>あとう だたかし</small>阿刀田高がある企業の「45 歳研修」の中で、文学の講義を担当したときの講義録の一部を編集したものです。<small>あくたがわりゅうのすけ</small>芥川龍之介をはじめ9人の作家の10作品を取り上げ、小説の味わい方や楽しみ方を易しく書いています。小説はあまり読まないという人のための良い小説案内になるのではないのでしょうか。</p>		
阿刀田高／著	新潮社	1998.5	


※版元品切れ


	「勘違い」だらけの日本文化史		本館
			210.1ハ
<p>因幡のシロウサギは白じゃない？現代アイドル顔負け？奈良時代の高スペック、キラキラネームの持ち主「羽栗翼」くん！</p> <p>本書は、現代人の思い込みの根拠を示してツッコみ、日本文化の意外な事実を教えてください。その語り口はおもしろい授業！気軽に有職故実<small>ゆうそくこじつ</small>に触れられ、歴史やものごとの捉え方を変えるであろう一冊です。</p>			
はちしょうただもと 八條忠基／著		淡交社	2021.6


①	②	旅のオチが見つからない	志摩館
		① おひとりさまのズタボロ世界一周！ ② インド&南アジア混沌ドロ沼！一人旅	① 290.9ヒ ② 292.5ヒ
<p>数年前、それまでの日常が一変。自由に外国に行ける日はいつ戻ってくるのか？そう思っていた時、この本に出会った。作者の旅は一般的なものとは違うかもしれない。「こんなことできる人はなかなかいないでしょ」と思うかもしれない。それでもこの本は、私をワクワクさせてくれる。「今」が落ち着いたたら一番に行きたい国も決めてくれた。</p>			
ひくはし 低橋／著		KADOKAWA	①2020.3 ②2021.10


	貧しい国で女の子として生きるということ 発展途上国からの5つの物語		本館
			367.2マ
<p>文章が少なく、片面が写真という構成なのですぐ読めるが、書かれている内容は重い。開発途上国でなくとも現代日本でも「女」という性で生まれたことによる不平等は十分に当てはまるのではないか。ジェンダーギャップが言われて久しいが、いつになったら男女平等・同権の世の中になるのだろうか？性別問わず、生まれながらの不平等などあってはならないのだ。</p>			
遊タイム出版／編		遊タイム出版	2010.10



	まどさんの詩で時間割	本館
		370.4イ
<p>長年小学校の教師をしてきた編者が、まど・みちおさんの詩を、月曜日朝の会から順番に時間割ごとに紹介していく。朝の会⇒『はーい』、掃除の時間⇒『ぞうきん』、音楽の時間⇒『ぞうさん』、といった具合。「詩というのは、頭に伝えるのではなく、心に響かせるもの。」というまどさんの言葉通り、心豊かに響いてきます。</p>		
いwanaべたいじ／編著	かもがわ出版	2022.3

	SAPEURS(サプール)	二丈館
		383.1ザ
<p>貧民街の中をお洒落なハイブランドのスーツに身をつつんだ人たちが練り歩く。彼らは決してお金持ちではない。彼らは服にお金をかける、自分を磨く、それはセレブの趣味ではなく、自分に自信を持つためであり、自分にふさわしい姿であるための手段であるのだと言う。ファッションが持つ力ってすごい！と目から鱗が落ちる本。</p>		
タリーク・ザイディ／著 ヤナガワ智予／訳	青幻舎インターナショナル	2020.11

	誰も知らない世界のことわざ	本館
		388.8サ
<p>いろいろな国の不思議な言い回しのことわざが紹介されています。何となく見当がつくものも、説明されてもよく分からないものもあります。『青の問いに緑の答え』は奥深い意味がありそうです。『ガレージにいるタコの気分』はおかしくてかわいい。国や民族の文化の違いを洒落たイラストと解説で楽しめます。</p>		
エラ・フランシス・サンダース／著・イラスト 前田まゆみ／訳	創元社	2016.10

	わたしの主人公はわたし	本館
		498.3ホ
<p>「ネガティブ思考クィーン」というほどネガティブになりがちな著者が自身の経験をもとに、自分の心と向き合い、生きづらさを脱するためのコツを綴ったエッセイです。読み進んでいくと心が軽くなり、「自分のままでいいんだ」と思わせてくれる温かくて優しい本で、読み終わったときには、晴れ晴れとした気持ちになれます。</p>		
ほそかわてんてん 細川貂々／著	平凡社	2017.8





	40歳からの予防医学		本館
			498.3モ
<p>40歳は自分だけでなく親の健康や介護が気になる世代です。がんや糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病は防ぐことが可能です。健康寿命を延ばすために食べてはいけない物、病気を遠ざけるための生活習慣など、悲しい現場を多く見てきた内科医が分かりやすく解説してくれています。</p>			
もりゆうま 森勇磨／著		ダイヤモンド社	2021.9


	日常の絶景		本館
			510.4ハ
<p>絶景ブームの昨今、メディアや SNS で紹介された場所を目指し出かける人も多いと思います。観光地でなくても、日常目にする風景にも絶景は隠れています。ビルの室外機の並びにデザイン性を感じたり、自販機脇のリサイクルボックスが笑っていたりするのです。この本を読んで、自分だけの絶景探しをしてみませんか。</p>			
はちまさとし 八馬智／著		学芸出版社	2021.12


	人類が火星に移住する日		本館
			538.9ジ
<p>地球の生命を移住させる最有力候補は火星だという。この本は、火星を第2の地球化する構想や、火星有人飛行計画について書かれている。宇宙軌道エレベーターの研究。人間を人工的に冬眠させて、火星へ運ぶ研究は、読んでいて好奇心がかきたたれワクワクした。火星移住は夢のような話だけど、すぐそこにある未来でもある。</p>			
矢沢サイエンスオフィス／著 たけうちかほる 竹内薫／著		技術評論社	2015.8

	全員がサラダバーに行ってる時に全部のカバン見てる役割		本館
			911.1オ
<p>世の中に一人だけという(著者談)「歌人芸人」によるフリースタイル短歌エッセイ集。その題材となるものは、思わずあるある!と笑ってしまう日常の小さな不幸。損な生き方にも見えるけれど、著者の不器用で優しい人格が見え隠れして、ほっこり温かな気持ちになれる一冊です。</p>			
おかもとゆうや 岡本雄矢／著		幻冬舎	2022.4

	幸せについて	志摩館
		911.5 夕
<p>「幸せ」とは言葉ではっきりと定義できない曖昧なもの。谷川俊太郎氏は、今考える「幸せ」を、あえて言葉で表現しています。心がじんわり、温かくなる本です。幸せの解釈は人それぞれ。なんてことない日常も幸せであふれているものです。みなさんにとっての幸せとは？この本で感じてみてください。</p>		
	たにかわしゅんたろう 谷川俊太郎／著	ナナロク社
		2018.12

	恩讐の彼方に	二丈館
		BFキ
<p>ある本で紹介されており原作を読みたいと手に取った作品。読んだ感想は、最高。号泣。たった数十ページに人と人の間に生まれる、心が震える瞬間が描かれている。男の信念がとても静かで、その静けさゆえに力強い。ひとりの人間の二十数年間を目の前で見させてもらったような、小説と自分が一体になったような読後感。</p>		
	きくちかん 菊池寛／著	KADOKAWA
		1979

	神さまのビオトープ	二丈館・志摩館
		BFナ
<p>ビオトープとは生物が安定して生活できる空間という意味があるそうです。事故で亡くなった夫“鹿野くん”と暮らす“うる波”。人にはみえない彼と暮らす日常は穏やかで幸せで、少しせつない。そして二人をとりまく人々にも事情や秘密があるのです。常識や他人の価値観ではなく、自分が生きるための大事なものを大切にしたいと、ひっそり願うお話です。</p>		
	なぎら 凧良ゆう／著	講談社
		2017.4

	犬棒日記	本館
		914.6ノ
<p>犬棒…犬も歩けば棒に当たるの略。街中で目にした見知らぬ人々のひと時を切り取ったエッセイですが、ショートショートを読んでいるかのような。小説家の視点で見ているためか、日常の中にはこんなにも様々な物語が落ちているのかと思う。私個人としてはなるべく出会いたくない人たちが、第三者の立場で眺めるのはいいかも。</p>		
	のなみ 乃南アサ／著	双葉社
		2018.3



# YA(中高生)




	高校生と考える21世紀の論点		本館
			Y041コ
	<p>神奈川県の中高一貫校が、大学の研究者を招いて行った、体験授業の記録です。多様な分野の第一線の講師の講義が掲載されるので、進路に迷う人の参考になると思います。中高生だけでなく人生に迷う大人の方にも参考になる章が多数あります。</p>		
とうこうがくえん 桐光学園中学校・高等学校／編	左右社	2019.4	

	生きのびるための「失敗」入門		本館
			Y159ア
	<p>失敗は人生の経験値、弱さをさらけ出す、迷惑をかける練習等々正解はないけれどそれでも何とか生きて行ける！</p> <p>弱いロボットの研究者岡田先生が作ったゴミ箱ロボット、ティッシュを配ろうとするけど渡せないアイ・ボーンズを観てみて！心がホンワカしますよ。</p>		
あまみやかりん 雨宮処凛／著	河出書房新社	2022.1	

	もがいて、もがいて、古生物学者!!		二文館
			Y457キ
	<p>「研究者」の話なんて関係ない、などと思わないでください。「好き」を仕事にするには？ 本当に食べていける？ 壁にぶつかったら？ といった、将来を考えた時に現れる壁を乗り越えるためのヒントが、そこここに隠されています。もちろん、本気で研究者を目指す人には参考になること間違いなしの一冊です。</p>		
きむらゆり 木村由莉／著	ブックマン社	2020.8	

	世界は「」で沈んでいく		本館
			YFサ
	<p>凜子は、友だちづくりが苦手です。ひとりでも大丈夫だからと言い通します。でも世の中は何かあったのでは・・・とそれを許さない風潮にあります。凜子は友だちがいるように振る舞い、家でも学校でも疲れる日が続きます。同じクラスの人や家族との関わりで、人の心の内を感じ取るまでに凜子が成長していきます。友達関係に悩んでいる人に読んでもらいたい一冊です。</p>		
さくら 櫻いいよ／著	PHP研究所	2022.2	




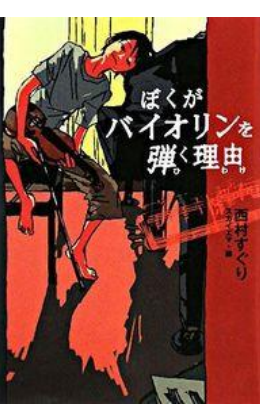
	跳べ、暁！	志摩館
		YFフ
<p>壁にぶつかって思い悩むのは大人だけじゃない。中2の5月に転校する事になった暁がバスケ部を創り、出会った仲間と共にそれぞれが抱える問題に立ち向かう。1人では頑張れなくても、自分の思いをきちんと伝え合えた「チーム」としてなら頑張れる。そんな、人間ならではの強さを信じてみたくなる一冊。バスケシーンは圧巻！</p>		
ふじおかようこ 藤岡陽子／著	ポプラ社	2020.7





## 児童書




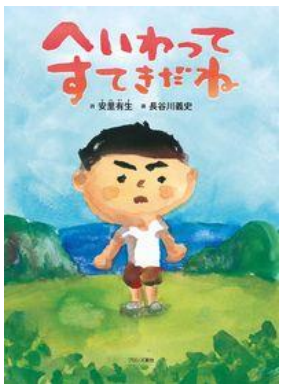
	こんぴら <sup>いぬ</sup> 狗	本館・二丈館・志摩館
		913イ
<p>病気の飼い主に代わってお参りをするため、江戸の町から四国の金比羅<sup>こんびら</sup>宮まで、数百キロもの道のりを往復する旅に出た犬・ムツキ。この「こんぴら狗」は、江戸時代に実際にあった風習だそう。たくさんの出会いと別れを体験しながら、ムツキは歩み続けます。ガンバレ！と応援しながら、あなたも一緒に旅をしませんか。</p>		
いまいきょうこ 今井恭子／著	くもん出版	2017.12

	ぼくがバイオリンを弾く <sup>わけ</sup> 理由	二丈館
		913ニ
<p>何かうまくいかないとき、君だったらどうする？ 何回も諦めずにトライ？もういやだから、逃げちゃう？</p> <p>主人公カイトは、幼い頃からバイオリンを習っている。コンクールに出場するも審査結果は落選。演奏方法に疑問を持ち、一度はバイオリンから離れてしまう。しかし、1枚の楽譜に出会い、演奏することの意味を考えていく。</p>		
にしむら 西村すぐり／作	ポプラ社	2008.10

	スノーグース	本館
		933 ギ
<p>美しい自然に囲まれた偉業南東部の水辺の地。背中に醜いこぶがあり、左手に障害をもつ絵描きのフィリップ。彼が愛したのは彼の元を毎年訪れる渡り鳥の真っ白なガンと美しい少女フリスでした。</p> <p>そのうち戦争が始まります。フィリップが命をかけて守ろうとしたのは何か。人の心の強さや美しさにきっと感銘を受けることでしょう。</p>		
ポール・ギャリコ／著	あすなろ書房	2007.9

	はちうえほぼくにまかせて		本館・二丈館・志摩館
			Eグ
<p>夏休みにお出かけする予定のないトミーが旅行する近所の人のお鉢植えを預かって育てるお話です。海外と日本の生活スタイルの違いはありますが、家族の在り方はどこも同じで共感できます。やりたい事をどれだけ応援できるか解らない今、読んでみて下さい。見守る事で、子供達の夢がきっとあなたの夢にもなることでしょう。</p>			
ジーン・ジオン／さく マーガレット・ブロイ・グレアム／え もりひさし／やく		ペンギン社	1981.8

	ゆかしたのワニ		志摩館
			Eコ
<p>ぼくのいえの床下にはワニがいて、夜になるとぼくはワニの歯みがきに行きます。懐中電灯、歯ブラシ、バケツを持ってワニの口の中に入って、虫メガネで調べながらしっかり歯みがき。さあ、無事に最後まで歯みがきできるかな。ハラハラドキドキのおはなしです。</p>			
ねじめ正一／文 コマツシヤ／絵		福音館書店	2022.5

	へいわってすてきだね		本館・二丈館・志摩館
			Eハ
<p>沖縄県与那国島に住む安里有生くんが、小学校1年生の時に書いた「へいわってすてきだね」という詩から生まれた絵本。安里くんの素直で純粋な平和への願いが伝わってきて、当たり前の日々の尊さに改めて気付かされます。「平和ってなんだろう」と考えるきっかけをくれる、大人にも読んでほしい一冊です。</p>			
あさとゆうき 安里有生／詩 はせがわよしふみ 長谷川義史／画		ブロンズ新社	2014.6



●糸島市図書館本館	〒819-1119 糸島市前原東一丁目3番1号	(☎321-1432)
●糸島市図書館二丈館	〒819-1692 糸島市二丈深江1360番地	(☎332-2118)
●糸島市図書館志摩館	〒819-1392 糸島市志摩初30番地	(☎332-2119)
★ ホームページ		<a href="https://itoshima.libweb.jp/">https://itoshima.libweb.jp/</a>

